

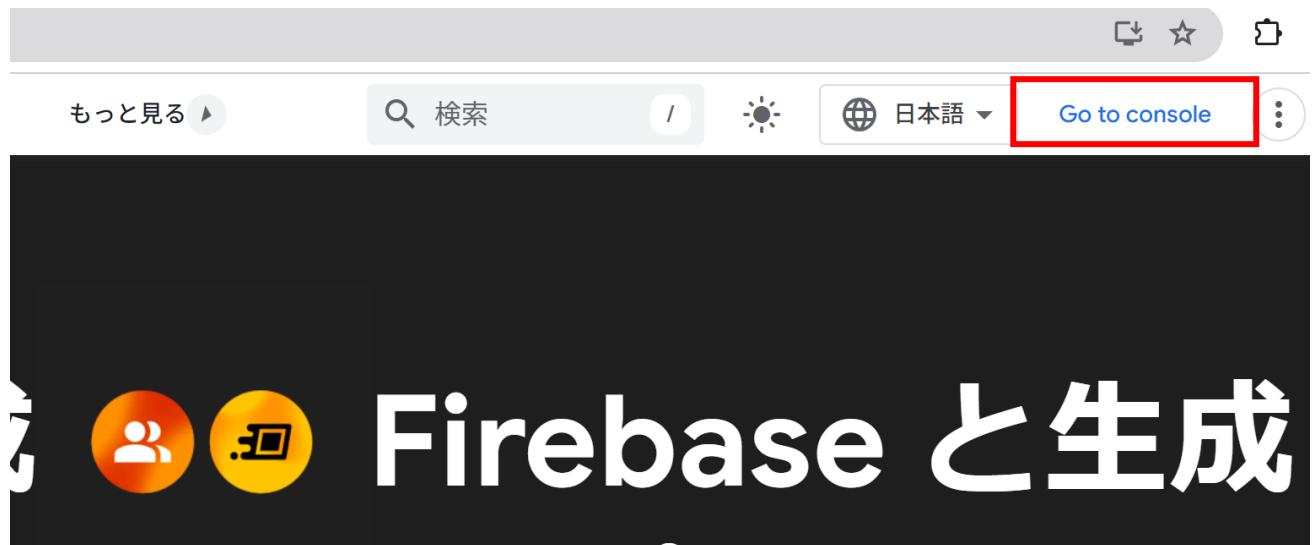
## ChatBot-edu の設定方法

### 1. Firebase の登録

①下記の URL をクリックして Firebase にアクセス

<https://firebase.google.com/?hl=ja>

② 「Go to console」をクリック



③ 「プロジェクトを追加」をクリック



④ プロジェクト名（「例：chatbot-setup」）を入力して「続行」をクリック



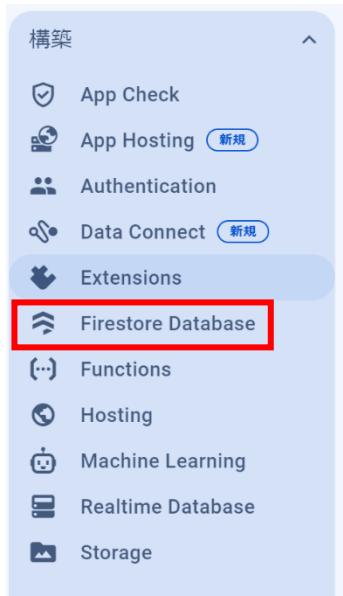
⑤ 「Google アナリティクス」を無効にするにして「プロジェクトを作成」をクリック



⑥ ④で入力したプロジェクト名のプロジェクトが表示されますので、「構築」をクリック



⑦ 「Firestore Database」をクリック



⑧ 「データベースの作成」をクリック



⑨ロケーションを「asia-northeast1(Tokyo)または(Osaka)」を選択して「次へ」をクリック

データベース ID

(default)

ロケーション

nam5 (United States)

リージョン

- asia-east1 (Taiwan)
- asia-east2 (Hong Kong)
- asia-northeast1 (Tokyo)**
- asia-northeast2 (Osaka)**
- asia-northeast3 (Seoul)
- asia-south1 (Mumbai)
- asia-southeast1 (Singapore)

Cloud Firestore の料金

⑩「本番モードで開始する」をチェックし「作成」をクリック

### ⑩ 本番環境モードで開始する

データはデフォルトで限定公開になります。クライアントの読み取り / 書き込み権限は、セキュリティ ルールで指定されているとおりに付与されます。

⑪「コレクションを開始」をクリック

コレクション ID (default)

+ コレクションを開始

⑫コレクション ID に「school-data」を入力して「次へ」をクリック

コレクション ID ②

school-data

キャンセル 次へ

⑬下記のように設定を行い、「保存」をクリック

ドキュメントの親パス  
/ school-data

ドキュメント ID ②

必須

管理者及び使用生徒のドメイン  
(例 : gmail.com)

フィールドを「authenticated」  
タイプを「array」とする

authenticated = array

タイプを「string」  
値を管理者の「ユーザー名」とする  
(例 : 'iizuna' ← iizuna@gmail.com)

フィールドを「deployed」  
タイプを「map」とする

deployed = map

... フィールドを追加

フィールドを「test01」  
タイプを「string」  
値を「test02」とする

test01 = string test02

... フィールドを追加

フィールドを「pass」  
タイプを「map」とする

pass = map

... フィールドを追加

フィールドを「test03」  
タイプを「string」  
値を「test04」とする

test03 = string test04

... フィールドを追加

... フィールドを追加

⑭「コレクションを開始」をクリック

+ コレクションを開始

school-data >

⑮コレクション ID に「publish-data」を入力して「次へ」をクリック

コレクション ID ②

publish-data

キャンセル 次へ

⑯ドキュメント ID は「自動 ID」として下記のように設定を行い「保存」をクリック

ドキュメント ID ②

必須

自動 ID

フィールドを「test05」  
タイプを「string」  
値を「test06」とする

test05 = string test06

④ フィールドを追加

⑯ 「ルール」をクリック



Cloud Firestore

データ ルール インデックス 使用状況 Extensions

保護 請求許可やフィッシングなどの不正行為から Cloud Firestore のリソースを保護します App Check

publish-data > BaHtZ69dcJALK.

(default) publish-data BaHtZ69dcJALKByDuvOr

+ コレクションを開始 + ドキュメントの追加 + コレクションを開始

+ フィールドを追加

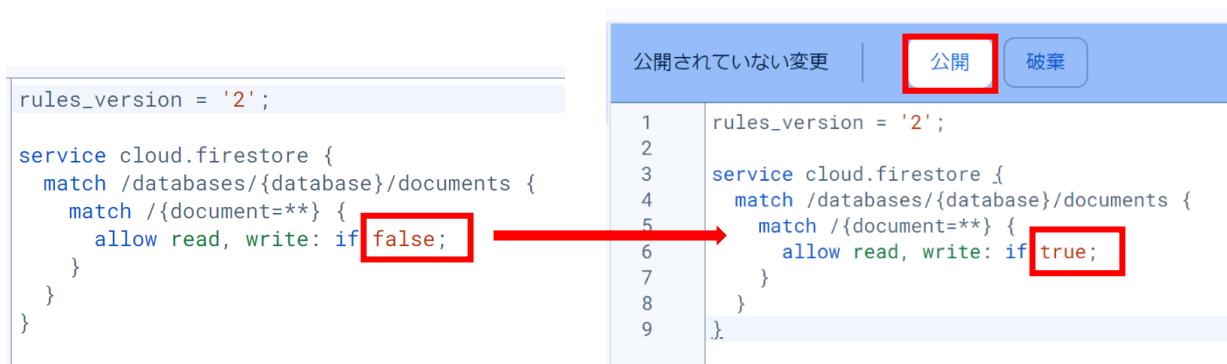
school-data

publish-data >

BaHtZ69dcJALKByDuvOr >

test05: "test06"

⑯ 「false」を「true」に変更し、「公開」をクリック



rules\_version = '2';

```
service cloud.firestore {
  match /databases/{database}/documents {
    match /{document=**} {
      allow read, write: if false;
    }
  }
}
```

公開されていない変更 | **公開** 破棄

```
1 rules_version = '2';
2
3
4
5   service cloud.firestore {
6     match /databases/{database}/documents {
7       match /{document=**} {
8         allow read, write: if true;
9       }
10     }
11   }
12 }
```

## 1. GoogleCloud の登録

①下記の URL をクリックして Firebase にアクセス

<https://console.cloud.google.com/welcome>

②プロジェクト名を選択（例：chatbot-setup）



\$300相当の無料トライアルをご利用ください。クレジットを使いつても料金は発生しません。 詳細

Google Cloud chatbot-setup-procedure-777 サラッシュ (/)

プロジェクトを選択

プロジェクトとフォルダを検索

最近のプロジェクト スター付き すべて

③「ナビゲーションウィンドウ」→「API とサービス」→「有効な API とサービス」をクリック



Google Cloud chatbot-setup サラッシュ (/)

Cloud の概要 プロダクトとソリューション

固定されたプロダクト

API API とサービス 課金 IAM と管理 マーケットプレイス Compute Engine

有効な API とサービス

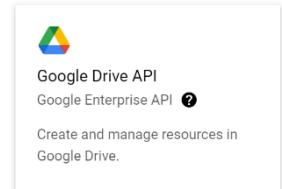
ライブラリ 認証情報 OAuth 同意画面 ページの使用に関する契約

④「+API とサービスを有効にする」をクリック



API とサービス + API とサービスを有効にする

⑤「Google Drive API」をクリック



Google Drive API

Google Enterprise API

Create and manage resources in Google Drive.

⑥「有効にする」をクリック



Google Drive API

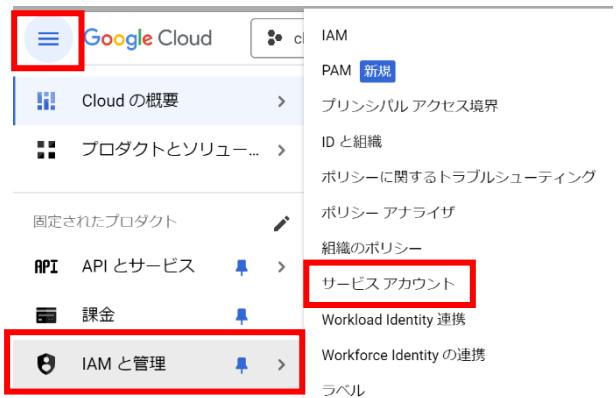
Google Enterprise API

Create and manage resources in Google Drive.

有効にする この API を試す

\* 「Google Docs API」、「Google Forms API」、「Google Sheets API」、「Apps Script API」も同様に有効にする

⑦ 「ナビゲーションウィンドウ」→「IAMと管理」→「サービスアカウント」をクリック



⑧ 「+サービスアカウントを作成」をクリック



⑨ サービスアカウント名を入力（例：firebase-connector）して「作成して続行」

① サービスアカウントの詳細

⑩ 「ロールを選択」→「Cloud Datastore」で検索し→「Cloud Datastore オーナー」→「続行」

② このサービスアカウントにプロジェクトへのアクセスを許可する（省略可）

このサービスアカウントに chatbot-setup へのアクセス権を付与して、プロジェクト内のリソースに対する特定のアクションを完了する権限を付与します。 [詳細](#)

⑪ 「完了」をクリック

- サービス アカウントの詳細
- このサービス アカウントにプロジェクトへのアクセスを許可する (省略可)
- 3** ユーザーにこのサービス アカウントへのアクセスを許可 (省略可)

Grant access to users or groups that need to perform actions as this service account. [Learn more](#)

サービス アカウント ユーザーロール	?
このサービス アカウントを使用してジョブと VM をデプロイする権限をユーザーに付与します。	
サービス アカウント管理者ロール	?
このサービス アカウントを管理する権限をユーザーに付与します。	

**完了** キャンセル

⑫ 「詳細を管理」をクリック

firebase-connector@chatbot-setup.iam.gserviceaccount.com	有効	firebase-connector	キーがありません	108048804061462031307	⋮
	<input checked="" type="checkbox"/>				<b>詳細を管理</b> 権限を管理 鍵を管理

⑬ 「キー」をクリック

詳細	権限	<b>キー</b>	指標	ログ

⑭ 「鍵を追加」→「新しい鍵を作成」をクリック

鍵を追加 ▾

- [新しい鍵を作成](#)
- [既存の鍵をアップロード](#)

⑮ キーのタイプを「JSON」に選択し「作成」をクリック

「firebase-connector」の秘密鍵の作成

秘密鍵を含むファイルをダウンロードします。この鍵を紛失すると復元できなくなるため、ファイルは大切に保管してください。

キーのタイプ

**JSON**

P12

P12 形式を使用したコードとの下位互換性を目的としています

キャンセル **作成**

\* 保存された JSON ファイルは非常に重要

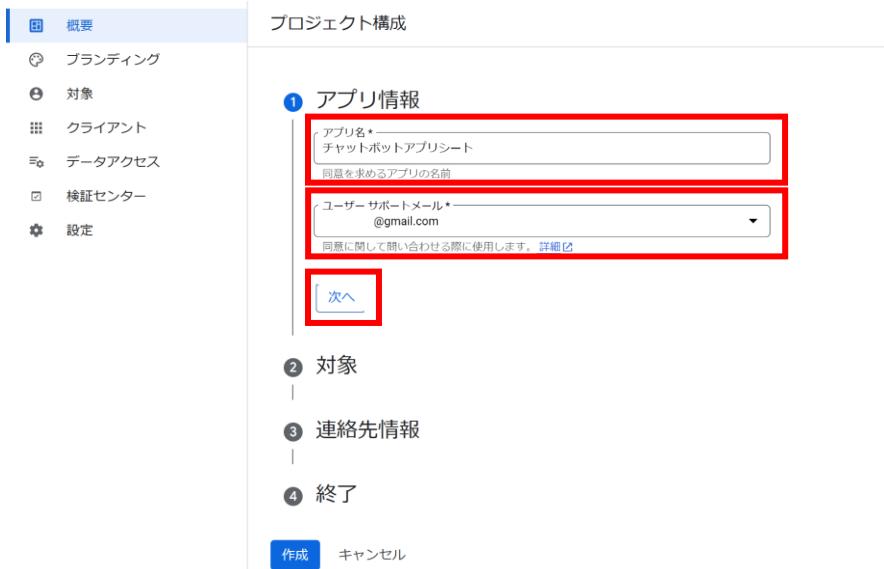
⑯ 「ナビゲーションウィンドウ」→「API とサービス」→「OAuth 同意画面」をクリック



⑰ 「開始」をクリック



⑰ アプリ名（例：チャットボットアプリシート）とユーザーサポートメールを入力し、次へをクリック



⑯

⑮外部を選択して次ぎへをクリック

② 対象

内部 ②

組織内のユーザーのみが使用できます。確認を受けるために  
アプリを送信する必要はありません。 [ユーザーの種類の詳細](#)

②

外部 ②

Google アカウントを持つすべてのテストユーザーが使用でき  
ます。アプリはテストモードで起動し、アプリを使用できる  
のは、テストユーザーのリストに追加されたユーザーに限ら  
れます。アプリを本番環境に移す準備ができたら、アプリの  
確認が必要となる場合があります。 [ユーザーの種類の詳細](#) ②

次へ

⑯連絡できるメールを入力して次ぎへをクリック

③ 連絡先情報

メールアドレス \*

このメールアドレスは、プロジェクトの変更について Google がお知らせす  
るために使用します。

次へ

⑰作成をクリック

⑲対象から「+ADD USERS」を選択して Firebase のアカウントを入力、「追加」をクリック

概要

② ブランディング

③ 対象

クライアント

データアクセス

検証センター

設定

対象

OAuth ユーザー数の上限 ②

公開ステータスが「テスト中」に設定されている間は、テストユーザー  
のみがアプリにアクセスできます。アプリの確認前の許可済みユーザー  
数の上限は 100 で、この上限はアプリの全期間でカウントされます。

[詳細](#) ②

ユーザー 0 人 (0 人がテストユーザー、残り 0  
人) / ユーザーの上限数は 100 人

②

テストユーザー

+ Add users

③ フィルタ プロパティ名または値を入力

②

ユーザー情報

表示する行がありません

### 3. **LIP** ファイルの解凍

①下記の URL より ZIP ファイルをダウンロード

<https://drive.google.com/file/d/1HEYhZcmmuS1MoeWbZ7GBNmpMX88Ho6k8/view>

②ダウンロードした ZIP ファイルをデスクトップに解凍する

#### 4. Firebase CLI のダウンロード及びデプロイ

①下記の URL より Firebase CLI をインストール

<https://firebase.google.com/docs/cli?hl=ja#windows-standalone-binary>

npm

Firebase CLI のバイナリをダウンロードして実行する方法は次のとおりです。

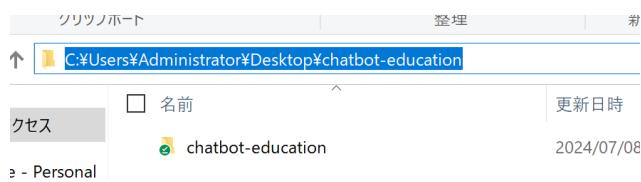
1. Windows 用の Firebase CLI バイナリ  をダウンロードします。
  2. バイナリにアクセスして、`firebase` コマンドを実行できるシェルを開きます。
  3. 続けて [ログインして CLI をテスト](#) します。

②? Allow Firebase to collect CLI and Emulator Suite usage and error reporting

information? という問い合わせに対して Enter キーを押す

③ 「firebase login」 を入力して Enter キーを押す

④解凍した ZIP ファイル (chatbot-education) を開き、アドレスバーの情報をコピー



⑤Firebase CLI に戻って

「cd コピーした情報をペースト」を入力して Enter キーを押す

(例 : cd C:\Users\Administrator\Desktop\chatbot-education)

④ 「firebase init」を入力して Enter キーを押す

⑤? Are you ready to proceed? (Y/n) という問い合わせに対して Enter キーを押す

⑥Hosting: Set up deployments for static web apps に移行し、スペースキーを押すと「\*」が付く、その状態で Enter キーを押す

```
✓ Are you ready to proceed? Yes
? Which Firebase features do you want to set up for this directory? Press Space to select features, then Enter to confirm your choices.
  ( ) Genkit: Setup a new Genkit project with Firebase
  ( ) Functions: Configure a Cloud Functions directory and its files
  ( ) App Hosting: Set up deployments for full-stack web apps (supports server-side rendering)
>(*) Hosting: Set up deployments for static web apps
  ( ) Storage: Configure a security rules file for Cloud Storage
  ( ) Emulators: Set up local emulators for Firebase products
  ( ) Remote Config: Configure a template file for Remote Config
↑ ↓ navigate · space select · a all · i invert · ↵ submit
```

⑦Use an existing project を選択し、Enter キーを押す

```
? Please select an option: (Use arrow keys)
> Use an existing project
  Create a new project
  Add Firebase to an existing Google Cloud Platform project
  Don't set up a default project
```

⑧Firebase で立ち上げたプロジェクトを選択し、Enter キーを押す

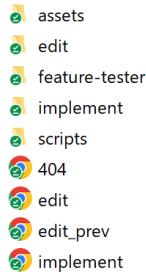
```
> chatbot-setup (chatbot-setup)
```

⑨? What do you want to use as your public directory? (public) という問い合わせに対して Enter キーを押す

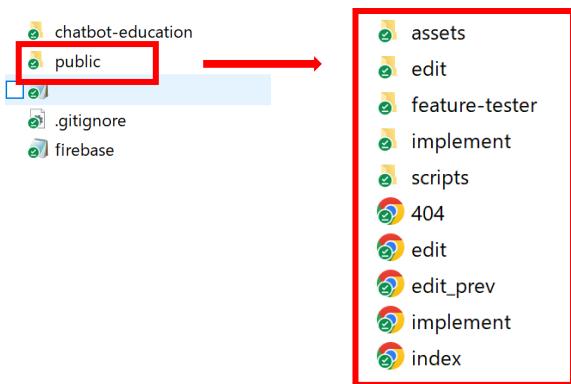
⑩? Configure as a single-page app (rewrite all urls to /index.html)? (Y/n) という問い合わせに対して Enter キーを押す

⑪? Set up automatic builds and deploys with GitHub? (Y/n) という問い合わせに対して 「n」 を入力し、Enter キーを押す

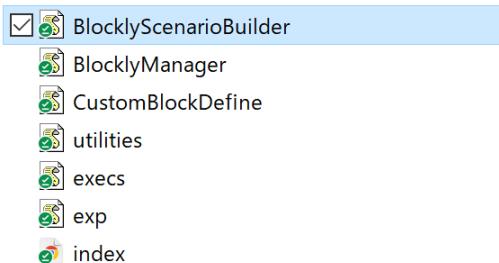
⑫chatbot-education フォルダに移行し、その中の chatbot-education フォルダの中身をすべてコピー



⑬public フォルダの中で貼り付けを行う



⑭public¥scripts¥blockly の中の「BlocklyScenarioBuilder.js」を開く



⑮「ここに入力」に必要事項をペーストして上書き保存 \*AZURE\_API 取得方法 P2 8～

```
/**  
 * 生成AI (Azure OpenAI)  
 * @param {BlocklyJsonBlock} block  
 */  
async GenerateAI(block) {  
  console.log("GenerateAI => block:", block);  
  let prompt = block.fields["PROMPT"] || "";  
  let userText = this.inputString || "";  
  let combinedPrompt = prompt + "\nユーザー入力: " + userText;  
  
  // Azure OpenAI設定 (環境変数または設定から取得)  
  const AZURE_OPENAI_API_KEY = "ここに入力";  
  const AZURE_OPENAI_API_VERSION = "ここに入力";  
  const AZURE_OPENAI_DEPLOYMENT = "ここに入力";  
  const AZURE_OPENAI_ENDPOINT = "ここに入力";
```

AZURE\_OPENAI\_API\_VERSION は  
「2025-01-01-preview」 でよい

⑯Firebase CLI に戻り、「firebase deploy」を入力して Enter キーを押す

⑰下図が完了画面 Hosting URL はメモしておく

```
> firebase deploy
== Deploying to 'chatbot-setup'...
i  deploying hosting
i  hosting[chatbot-setup]: beginning deploy...
i  hosting[chatbot-setup]: found 178 files in public
+  hosting[chatbot-setup]: file upload complete
i  hosting[chatbot-setup]: finalizing version...
+  hosting[chatbot-setup]: version finalized
i  hosting[chatbot-setup]: releasing new version...
+  hosting[chatbot-setup]: release complete

+ Deploy complete!

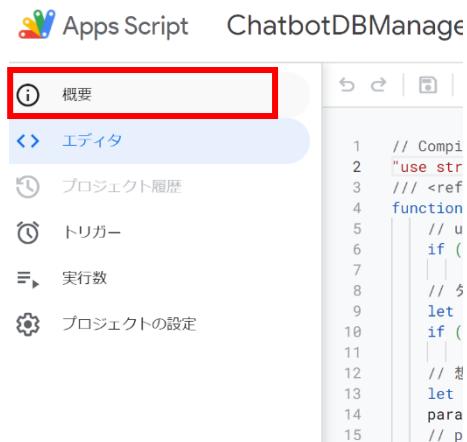
Project Console: https://console.firebaseio.google.com/project/chatbot-setup/overview
Hosting URL: https://chatbot-setup.web.app
```

## 4. ChatbotDBManager の設定

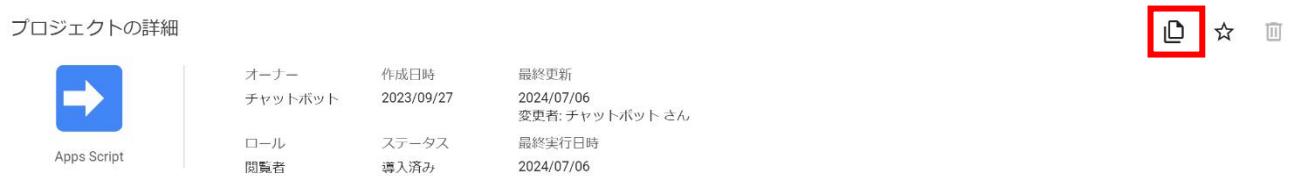
- ① 下記の URL をクリックして ChatbotDBManager にアクセス

[https://script.google.com/d/1EEIWb1MfJEISVqva\\_qMtHv4aO71GxfMwBZzRdEYq1vfBuDH4MaUoe1e8/edit?usp=sharing](https://script.google.com/d/1EEIWb1MfJEISVqva_qMtHv4aO71GxfMwBZzRdEYq1vfBuDH4MaUoe1e8/edit?usp=sharing)

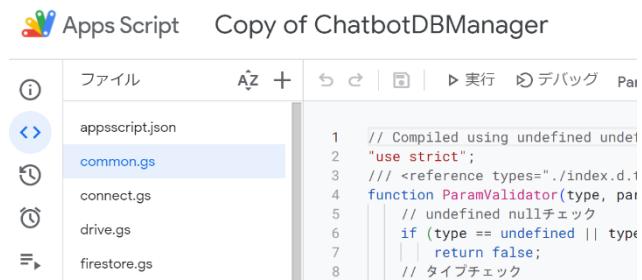
- ② 「概要」をクリック



- ③ 「コピーを作成」をクリック



自分の Google Drive に「Copy of ChatbotDBManager」が作成される



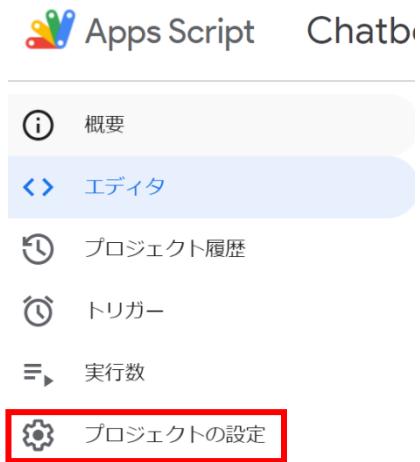
- ④ 「Copy of ChatbotDBManager」の「Copy of」部分を削除し「ChatbotDBManager」とする

プロジェクトの名前を変更

プロジェクトタイトル\*

キャンセル 名前を変更

⑤「プロジェクトの設定」をクリック



⑥「プロジェクトを変更」→GCP のプロジェクト番号を入力し「プロジェクトを設定」をクリック

Google Cloud Platform

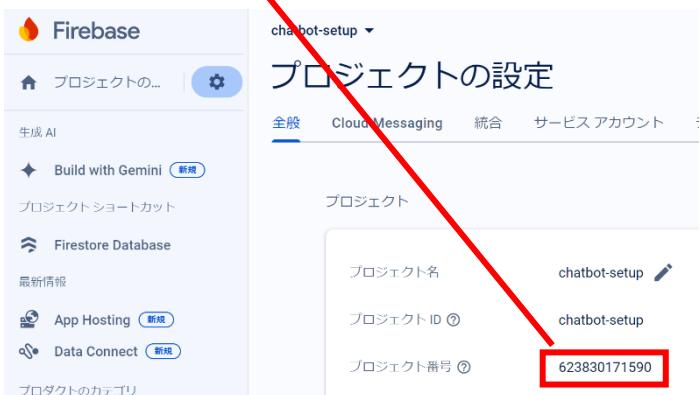
Apps Script プロジェクトで  
詳細が管理されます。詳し

GCP デフォルト

プロジェクトを変更

GCP のプロジェクト番号

プロジェクトを設定



⑦「スクリプトプロパティを追加」をクリック

スクリプトプロパティ

スクリプトプロパティを使用する  
プロパティを定義および公開できます  
ご覧ください。

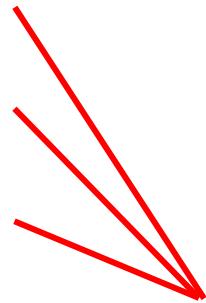
スクリプトプロパティを追加

## ⑧プロパティに「client\_email」「private\_key」「project\_id」を追加する

### スクリプトプロパティ

スクリプトプロパティを使用すると、特定のオブジェクトインスタンスに対して簡単にカスタムプロパティを定義および公開できます。詳しくは、[スクリプトプロパティに関するドキュメント](#)をご覧ください。

プロパティ client_email	値 firebase-connector@chatbot-setup-procedur
プロパティ private_key	値 ----BEGIN PRIVATE KEY----\nMIIEvQIBADANI
プロパティ project_id	値 chatbot-setup



\* 1. GoogleCloud の登録⑮で保存した JSON ファイルを開き、値を入力する

  
[ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)]  
[{"type": "service\_account", "project\_id": "chatbot-setup", "private\_key\_id": "cb0353544b257429d604c7a0a96358050712f8b6", "private\_key": "-----BEGIN PRIVATE KEY-----\nMIIEvQIBADANI\n-----END PRIVATE KEY-----\n", "client\_email": "firebase-connector@chatbot-setup-procedur", "client\_id": "105444444444-11111111111111111111111111111111", "auth\_provider\_x509\_cert\_url": "https://www.googleapis.com/oauth2/v1/certs", "auth\_provider\_x509\_cert\_url": "https://oauth2.googleapis.com/token", "token\_uri": "https://oauth2.googleapis.com/token", "auth\_provider\_x509\_cert\_url": "https://www.googleapis.com/oauth2/v1/certs", "client\_x509\_cert\_url": "https://www.googleapis.com/oauth2/v1/certs"}]

\* private\_key は「-----BEGIN PRIVATE KEY-----」から「-----END PRIVATE KEY-----」まですべてを貼り付けること

## ⑨「デプロイ」→「新しいデプロイ」クリック



## ⑩「種類の選択」→「ライブラリ」→「デプロイ」をクリック

新しいデプロイ

種類の選択   設定

ウェブアプリ

✓ ウェブアプリ

実行可能 API

アドオン

ライブラリ

自分 (k07b220@gmail.com)

このウェブアプリケーションを実行するために、あなたのアカウントデータを使用することを許可します。

アクセスできるユーザー

全員

ライブラリとしても利用できます。 [詳細](#)

キャンセル

⑪ 「アクセスを承認」をクリック

新しいデプロイ

このウェブ アプリケーションを

アクセスを承認

⑫ アカウントを選択後、「詳細を隠す」→「ChatbotDBManager のコピーに移動」をクリック



Googleはこのアプリを検証していません

アプリは Google アカウントの機密情報へのアクセスを要求しています。開発者 ([k07b220a@gmail.com](mailto:k07b220a@gmail.com)) が Google でこのアプリを確認するまで、このアプリを使用しないでください。

詳細を隠す

安全に戻る

リスクを理解し、開発者 ([k07b220a@gmail.com](mailto:k07b220a@gmail.com)) を信頼している場合のみ続行してください。

[ChatbotDBManagerのコピーに移動 \(安全ではありません\)](#)

⑬ 「続く」→「許可する」をクリックすることでデプロイが完了する

ライブラリ

URL

[https://script.google.com/macros/library/d/1FC6WjpLoAtJCMVK5\\_IlkONEPNkl2QLIbByDKEDQby-n6HVAwiq1PVIgR/1](https://script.google.com/macros/library/d/1FC6WjpLoAtJCMVK5_IlkONEPNkl2QLIbByDKEDQby-n6HVAwiq1PVIgR/1)

□ コピー

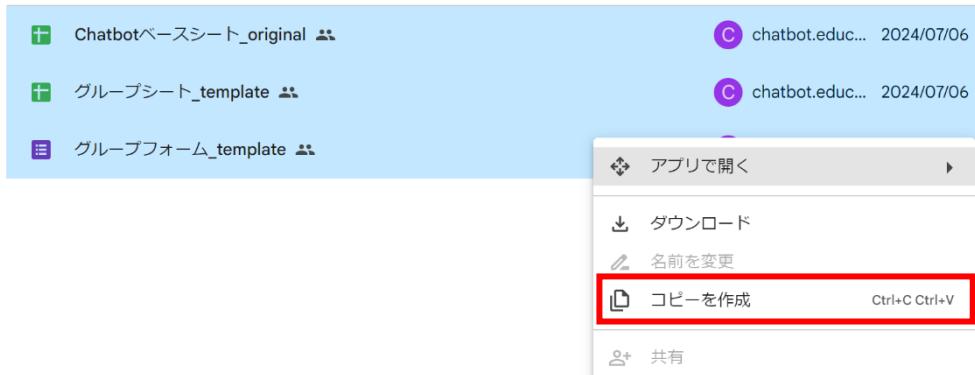
スクリプト ID

## 5. Chatbot ベースシート\_origin からの設定

①下記の URL にアクセス

<https://drive.google.com/drive/folders/15ClU1sgn8SW6LScb0WEUY7ZOeQGTuygd?usp=sharing>

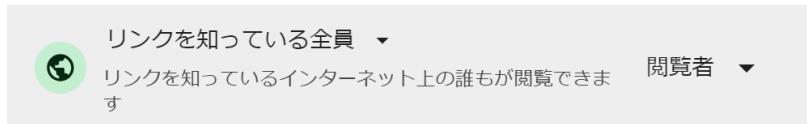
②3つのファイルをすべて自分の Google Drive にコピーする



③自分の Google Drive を開き、マイドライブに「Chatbot-template」フォルダを作成する

④Chatbot-template フォルダを右クリックし、「共有」→「リンクを知っている全員」にする

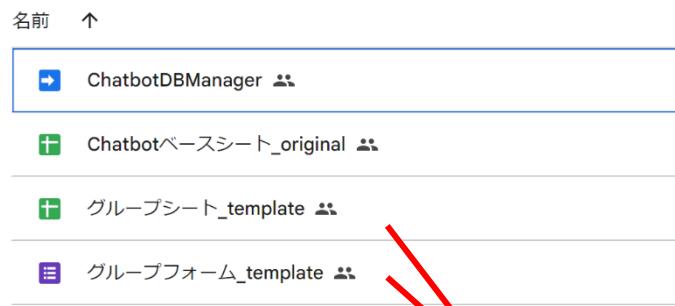
一般的なアクセス



⑤先ほどコピーした4つのファイルを検索し、Chatbot-template フォルダ内に移動させる

マイドライブ > chatbot-template >

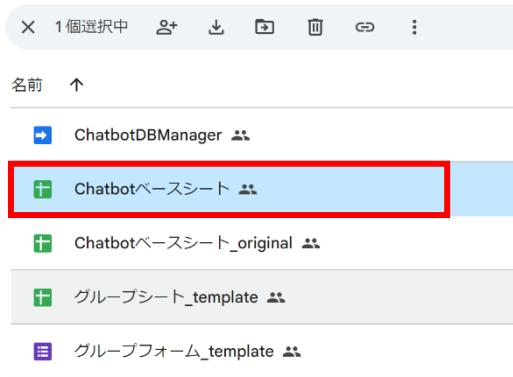
種類 ユーザー 最終更新



この2つのファイルが各生徒に反映される  
各学校やテーマに合わせて編集可能

⑥ 「Chatbot ベースシート \_original」をコピーし、名前を「Chatbot ベースシート」とする

マイドライブ > chatbot-template ▾



⑦マイドライブに戻り、新しく「Chatbot」フォルダを作成する

Chatbot-template フォルダと同様に一般的なアクセスを「リンクを知っている全員」にしておく

⑧Chatbot ベースシートを Chatbot-template フォルダから Chatbot フォルダに移動させる

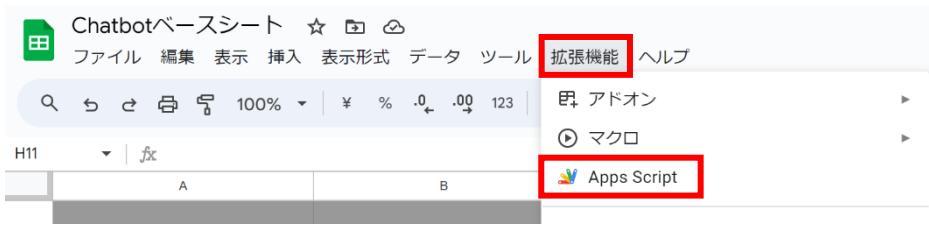
⑨Chatbot ベースシートを開く

Google フォームを一度ファイルを開いてコピー  
docs.google.com/forms/d/1GvmOC9hVX3ZY2y464gsehmbB8b6tTq5gzHaQ2\_klhGw/edit

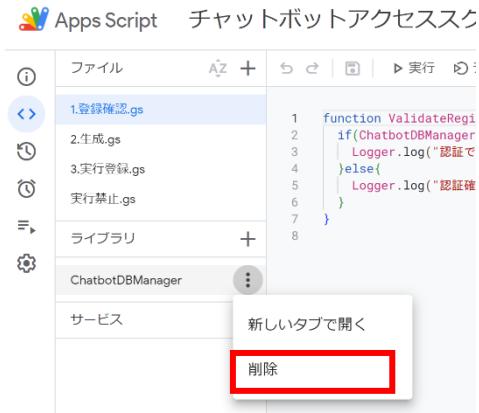
値	説明
PassPhrase	password このシートのGASへアクセスするために必要な合言葉です 半角英数6~12文字程度で設定してください
SheetTemplateURL	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a> キーワード等を格納しておくためのテンプレートシートのURLです シートを開いた時のURLをそのまま貼り付けてください(tab等は押さないでください)
FormTemplateURL	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a> チャットボット終了後に表示するフォームのテンプレートです フォームを開いた時のURLを貼り付けてください(回答URLではありません)
TargetYear	2024 授業を実施する年度を西暦で入力してください
TargetGrade	2 授業を実施する学年を数字で入力してください
ClassSheetSuffix	組 クラスシートであることを示す末尾の文字列です 例:「{任意の組名}組」というシートをクラスシートにする場合は「組」を指定
TargetSemester	1 授業が実施される学期を数字で入力してください ex:1学期である場合は1を入力
SchoolDomain	<a href="mailto:gmail.com">gmail.com</a> 学校で利用しているメールアドレスのドメイン
ChatbotOriginURL	<a href="https://chatbot-setup.we">https://chatbot-setup.we</a> 授業で利用するチャットボットのオリジンURL

```
+ hosting[chatbot-setup]: release complete
+ Deploy complete!
Project Console: https://console.firebaseio.google.com/project/chatbot-setup/overview
Hosting URL: https://chatbot-setup.web.app
```

⑪ 「拡張機能」→「App Script」をクリック



⑫ 「ChatbotDBManager」を削除する



⑬ ライブライブラリの追加「+」→スクリプト ID を入力し、「検索」をクリック



⑭バージョンを「1」とし、「追加」をクリック

## ライブラリの追加

利用可能なライブラリを ID で検索できます。[詳細](#)

—スクリプト ID \* —

1FC6WjpLoAtJCMVK5\_llkONEPNkl2QLlbByDKEDQby-n6HVAw

ライブラリのプロジェクト設定で確認できるライブラリのスクリプト ID。

[検索](#)

ライブラリ ChatbotDBManager を検索しました。

—バージョン—

1

利用可能なバージョン。

—ID \* —

ChatbotDBManager

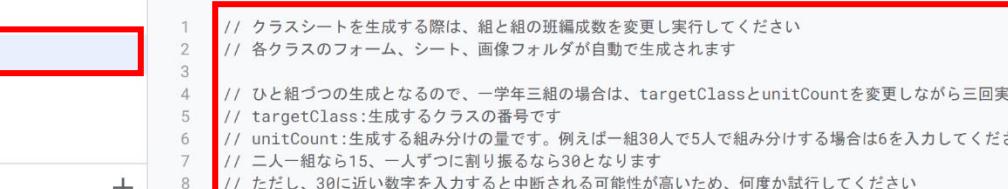
このプロジェクト内でこの ライブラリ を参照する際に使用します。

[キャンセル](#) [追加](#)

⑯ 「1. 登録確認.gs」 → 「実行」をクリック

ファイル	AZ +	↶ ↷	実行	デバッグ
1.登録確認.gs				
2.生成.gs				
3.実行登録.gs				

⑯ 「2. 生成.gs」→コメントを確認して→「実行」をクリック



The screenshot shows the Google Sheets script editor interface. The left sidebar lists several Google Apps Script files: '1.登録確認.gs', '2.生成.gs' (which is selected and highlighted with a red box), '3.実行登録.gs', and '実行禁止.gs'. Below these are sections for 'ライブラリ' (Libraries) and 'サービス' (Services), each with a '+' button to expand. The main area contains the script code for '2.生成.gs'. The code is annotated with comments explaining its purpose and parameters. The 'Execute' button at the top of the editor is also highlighted with a red box.

```
// クラスシートを生成する際は、組と組の班編成数を変更し実行してください
// 各クラスのフォーム、シート、画像フォルダが自動で生成されます
//
// ひと組づつの生成となるので、一学年三組の場合は、targetClassとunitCountを変更しながら三回実行してください
// targetClass:生成するクラスの番号です
// unitCount:生成する組み分けの量です。例えば一組30人で5人で組み分けする場合は6を入力してください
// 二人一組なら15、一人ずつに割り振るなら30となります
// ただし、30に近い数字を入力すると中断される可能性が高いため、何度か試行してください
//
function GenerateSheet(){
  // 生成する組(半角数字)
  let targetClass=1;

  // 組の班編成(半角数字)(初期は6班編成)
  let unitCount=6;

  Generate(targetClass,unitCount);

  Logger.log(`:${targetClass}組のファイル、フォルダ生成を完了しました:`);
}

// すべての組を生成したら、登録ステップに進んでください
```

⑯ 「3. 実行登録.gs」 → 「デプロイ」をクリック

Apps Script チャットボットアクセススクリプト

デプロイ

ファイル A-Z + ⌛ ⌚ 実行 デバッグ Register 実行ログ

1.登録確認.gs  
2.生成.gs  
3.実行登録.gs  
4.実行禁止.gs  
5.ライブラリ +  
6. ChatbotDBManager

```
1 // 右上のボタンからデプロイを実行後、表示されるウェブアプリURLをコピーして、置き換えを行ってください
2 // デプロイURLは、https://script.google.com/macros/ ではじまり、/execで終わるアドレスのことです
3 function Register(){
4
5 // 下記部分をデプロイURLで置き換えてください
6 // let deployURL="この部分をデプロイURLで置き換えてください";
7 let deployURL="";
8
9 ChatbotDBManager.DeployURLRegister(deployURL)
10
11 }
```

⑯ 「新しいデプロイ」 → 「デプロイ」から URL が作成させる → 「コピー」

ウェブアプリ

URL

<https://script.google.com/macros/s/AKfycbzvbeWuF95I2K4HPK0Kj2zy34eXhXthVwiBqZLqUjpE-FyHnpVwNhSOfeo9sQ...>

コピー

⑯ コピーした URL を「let deployURL=" "」の「" "」内に貼り付ける

```
1 // 右上のボタンからデプロイを実行後、表示されるウェブアプリURLをコピーして、置き換えを行ってください
2 // デプロイURLは、https://script.google.com/macros/ ではじまり、/execで終わるアドレスのことです
3 function Register(){
4
5 // 下記部分をデプロイURLで置き換えてください
6 // let deployURL="この部分をデプロイURLで置き換えてください";
7 let deployURL="";
8
9 ChatbotDBManager.DeployURLRegister(deployURL)
10
11 }
```



```
1 // 右上のボタンからデプロイを実行後、表示されるウェブアプリURLをコピーして、置き換えを行ってください
2 // デプロイURLは、https://script.google.com/macros/ ではじまり、/execで終わるアドレスのことです
3 function Register(){
4
5 // 下記部分をデプロイURLで置き換えてください
6 // let deployURL="この部分をデプロイURLで置き換えてください";
7 let deployURL="https://script.google.com/macros/s/AKfycbzvbeWuF95I2K4HPK0Kj2zy34eXhXthVwiBqZLqUjpE-FyHnpVwNhSOfeo9sQk9guV/exec";
8
9 ChatbotDBManager.DeployURLRegister(deployURL)
10
11 }
```

②0 「上書き保存」したら「実行」をクリック



```
1 // 右上のボタンからデプロイを実行後、表示されるウェブアプリURLをコピーし
2 // デプロイURLは、https://script.google.com/macros/ で始まり、/
3 function Register(){  

4  

5 // 下記部分をデプロイURLで置き換えてください
6 // let deployURL="この部分をデプロイURLで置き換えてください";
7 let deployURL="https://script.google.com/macros/s/AKfycbzkxexec";  

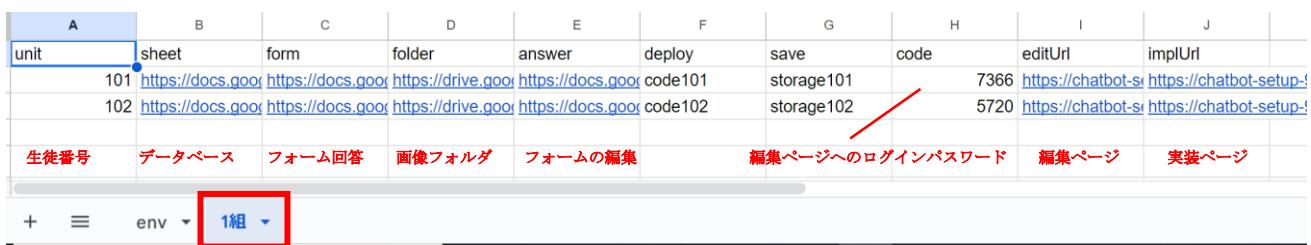
8  

9 ChatbotDBManager.DeployURLRegister(deployURL)  

10  

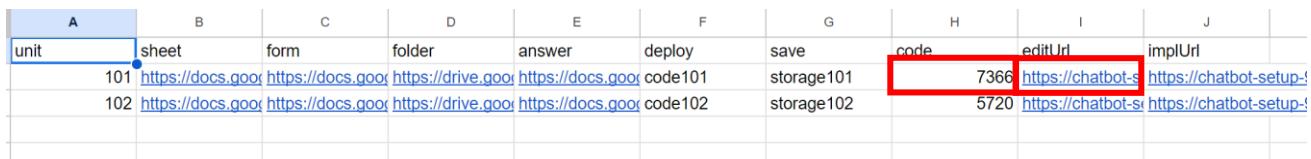
11 }
```

②1 Chatbot ベースシートに戻るとシートが追加されていることを確認



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
unit	sheet	form	folder	answer	deploy	save	code	editUrl	implUrl
101	<a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/1">https://docs.google.com/spreadsheets/d/1</a>	<a href="https://docs.google.com/forms/d/1">https://docs.google.com/forms/d/1</a>	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/1">https://drive.google.com/drive/folders/1</a>	<a href="https://docs.google.com/answer/1">https://docs.google.com/answer/1</a>	code101	storage101	7366	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>
102	<a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/2">https://docs.google.com/spreadsheets/d/2</a>	<a href="https://docs.google.com/forms/d/2">https://docs.google.com/forms/d/2</a>	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/2">https://drive.google.com/drive/folders/2</a>	<a href="https://docs.google.com/answer/2">https://docs.google.com/answer/2</a>	code102	storage102	5720	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>
生徒番号	データベース	フォーム回答	画像フォルダ	フォームの編集				編集ページへのログインパスワード	編集ページ
									実装ページ

②2 【編集ページの確認】code (例 : 7366) をコピーして editUrl にアクセスする



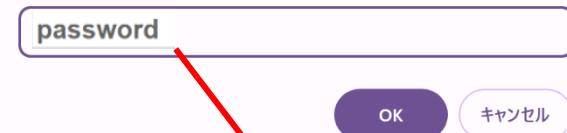
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
unit	sheet	form	folder	answer	deploy	save	code	editUrl	implUrl
101	<a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/1">https://docs.google.com/spreadsheets/d/1</a>	<a href="https://docs.google.com/forms/d/1">https://docs.google.com/forms/d/1</a>	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/1">https://drive.google.com/drive/folders/1</a>	<a href="https://docs.google.com/answer/1">https://docs.google.com/answer/1</a>	code101	storage101	7366	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>
102	<a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/2">https://docs.google.com/spreadsheets/d/2</a>	<a href="https://docs.google.com/forms/d/2">https://docs.google.com/forms/d/2</a>	<a href="https://drive.google.com/drive/folders/2">https://drive.google.com/drive/folders/2</a>	<a href="https://docs.google.com/answer/2">https://docs.google.com/answer/2</a>	code102	storage102	5720	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app/">https://chatbot-setup-99bd7.web.app/</a>

②3 シートアクセス用の合い言葉を入力する (例 : password)

\* 合い言葉は Chatbot ベースシートで設定した値になる

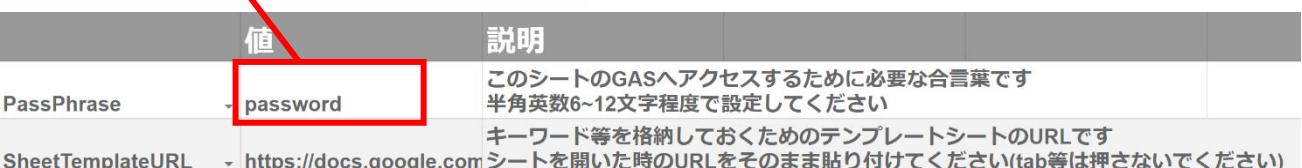
chatbot-setup-99bd7.web.app の内容

シートアクセス用の合言葉を入力



password

OK キャンセル

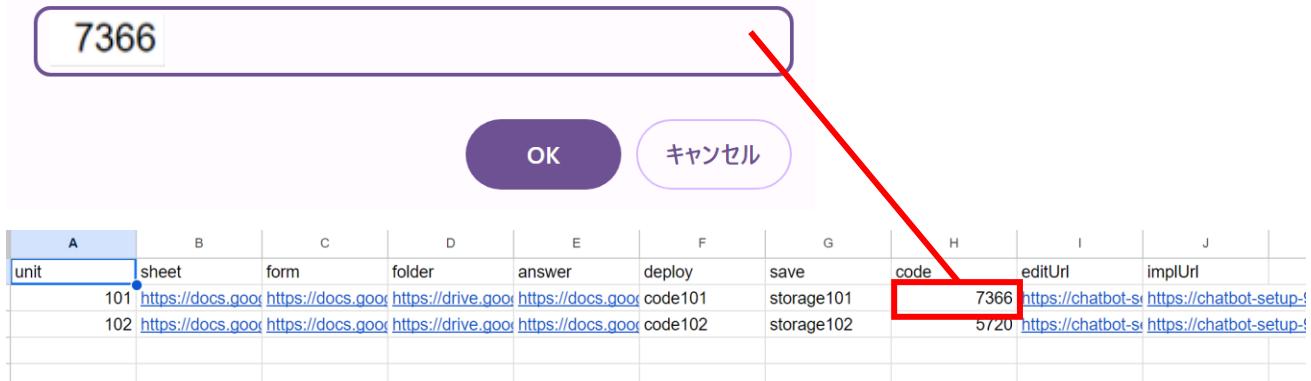


	値	説明
PassPhrase	password	このシートのGASへアクセスするために必要な合言葉です 半角英数6~12文字程度で設定してください
SheetTemplateURL	<a href="https://docs.google.com/spreadsheets/d/1">https://docs.google.com/spreadsheets/d/1</a>	キーワード等を格納しておくためのテンプレートシートのURLです シートを開いた時のURLをそのまま貼り付けてください(tab等は押さないでください)

②個人用合言葉を入力する（例：7366）

### chatbot-setup-99bd7.web.app の内容

個人用合言葉(4桁)を入力



A modal dialog box is shown with the text "7366" in a input field. Below the input field are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel). A red arrow points from the "code" column in a spreadsheet to the "code" input field in the modal.

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
unit	sheet	form	folder	answer	deploy	save	code	editUrl	implUrl
101	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://drive.google.com">https://drive.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	code101	storage101	7366 <a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	
102	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://drive.google.com">https://drive.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	code102	storage102	5720 <a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	

⑤設定完了 \* このページまで移行できない場合にはキャッシュをクリアし、ページ更新



The screenshot shows the "Chatbot編集ページ" (Chatbot Editor Page). On the left, a sidebar contains buttons for "シナリオ番号 0" (Scenario ID 0), "ユーザー入力" (User Input), "ボット出力" (Bot Output), "分岐番号 1" (Branch ID 1), "データベース参照 0" (Database Reference 0), "終了" (End), and "シナリオジャンプ 0" (Scenario Jump 0). At the bottom of the sidebar are buttons for "実行" (Run), "ステップ実行" (Step Execution), "ステップ" (Step), "停止" (Stop), "実装ページへ" (Deploy Page), and "保存操作" (Save Operation). To the right is a large blue text input area with a placeholder "テキストを入力" (Input text) and a "▶" button. The top of the page shows the date "2024 年度 02 学年 01 学期 1 週 1 週".

### 生徒への配付

別のスプレッドシートを作成し、「unit」、「sheet」、「folder」、「code」、「editUrl」を伝える

\* ユーザーへの質問を変更する場合には「answer」を編集する。その場合、対応した sheet 内のシート名「レビュー」の内容を変更する必要あり

unit	sheet	form	folder	answer	deploy	save	code	editUrl	implUrl
101	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://drive.google.com">https://drive.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	code101	storage101	7366 <a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	
102	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	<a href="https://drive.google.com">https://drive.google.com</a>	<a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	code102	storage102	5720 <a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	<a href="https://chatbot-setup-99bd7.web.app">https://chatbot-setup-99bd7.web.app</a>	

## 【アクセスできない場合】



このような画面が表示され、アクセスできない場合があります。

そのような場合は、システムを登録したドメインと生徒のドメインが違う場合に起こります。

キー	値	説明
PassPhrase	- password	このシートのGASへアクセスするために必要な合言葉です 半角英数6-12文字程度で設定してください
SheetTemplateURL	- <a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	キーワード簿を格納しておくためのテンプレートシートのURLです シートを開いた時のURLをそのまま貼り付けてください(tab等は押さないでください)
FormTemplateURL	- <a href="https://docs.google.com">https://docs.google.com</a>	チャットボット終了後に表示するフォームのテンプレートです フォームを開いた時のURLを貼り付けてください(回答URLではありません)
TargetYear	- 2024	授業を実施する年度を西暦で入力してください
TargetGrade	- 2	授業を実施する学年を数字で入力してください
ClassSheetSuffix	- 組	クラスシートであることを示す末尾の文字列です 例:「{任意の組名}組」というシートをクラスシートにする場合は「組」を指定
TargetSemester	- 1	授業が実施される学期を数字で入力してくださいex:1学期である場合は1を入力
SchoolDomain	- <a href="iizuna.ed.jp">iizuna.ed.jp</a>	学校で利用しているメールアドレスのドメイン
ChatbotOriginURL	- <a href="https://chatbot-setup-99">https://chatbot-setup-99</a>	授業で利用するチャットボットのオリジンURL

生徒のドメイン

システムを登録したドメイン

生徒のドメイン

この状態だとアクセスできない

## 解決策

システムを登録したドメイン

この情報をコピー

生徒のドメイン

ペースト

# 「AZURE\_API」に関する情報の取得方法

- ① 下記の URL に移行し、「Azure を無料でお試しください」をクリックする

<https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/purchase-options/azure-account?icid=azurefreeaccount>



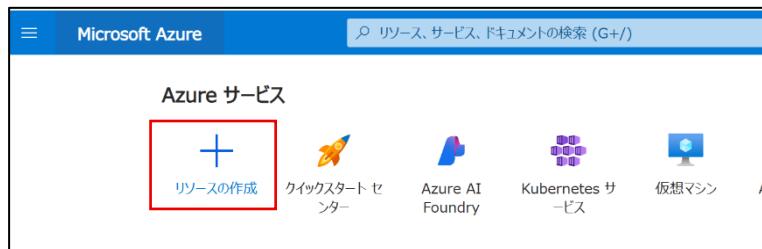
- ② サインインまたはアカウントがない場合には「作成」をクリックする



- ③ サインインが完了したら、下記の URL にアクセスする

<https://portal.azure.com/?quickstart=True#home>

- ④ 「リソースの作成」をクリック



## ⑤ 「Azure OpenAI」をクリックする

ホーム >

## リソースの作成

作業の開始

サービスとマーケットプレースを検索してください

作業を開始しますか?  
クイックスタートセンターをお試しください

最近作成されたもの

人気の Azure サービス [すべてのサービスで詳細を表示](#)

人気の Marketplace 製品 [Marketplace でさらに表示](#)

カテゴリ

- AI + 機械学習
- 分析
- ブロックチェーン
- コンピューティング
- コンテナー
- データベース
- 開発者ツール
- DevOps
- ID
- 統合
- モノのインターネット
- IT & 管理ツール

関数アプリ [作成](#)

SQL Database [作成](#)

仮想マシン [作成](#)

Azure AI services [作成](#)

Azure OpenAI [作成](#)

Key Vault [作成](#)

Windows Server 2022 Datacenter: Azure Edition Hotpatch [作成](#) [詳細情報](#)

Windows 10 Pro, version 22H2 [作成](#) [詳細情報](#)

Ubuntu Server 22.04 LTS [作成](#) [詳細情報](#)

Free SQL Server License: SQL Server 2022 Developer on Windows Server 2022 [作成](#) [詳細情報](#)

Red Hat Enterprise Linux10 (latest minor version) [作成](#) [詳細情報](#)

Debian 12 "Bookworm" [作成](#) [詳細情報](#)

⑥ リソースグループに新規作成で名前を入力（例：Assistant-AI-Chat）

名前\*にも名前を入力 (例: Assistant-AI-Chat)

価格レベル\*を「Standard S0」にする

詳細情報

プロジェクトの詳細

サブスクリプション \* ① Azure subscription 1

リソース グループ \* ① (新規) Assistant-AI-Chat [新規作成](#)

インスタンスの詳細

リージョン ① East US

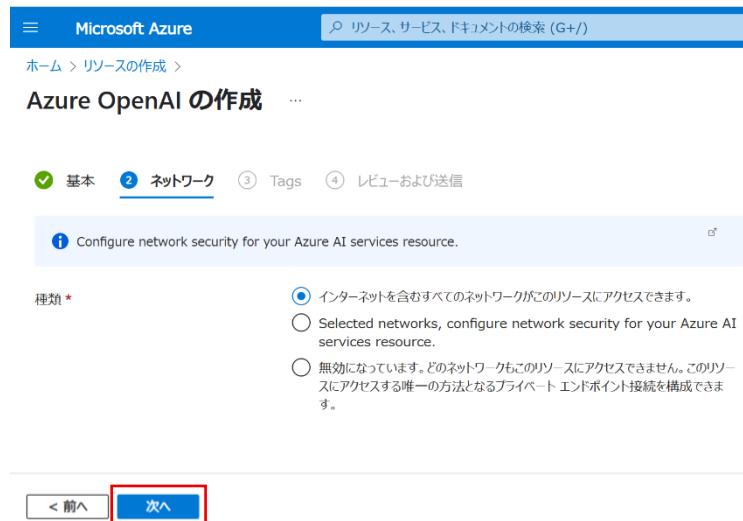
名前 \* ① Assistant-AI-Chat

価格レベル \* ① Standard S0

[価格の詳細を表示](#)

< 前へ 次へ >

⑦ 「次へ」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > リソースの作成 > Azure OpenAI の作成

① 基本 ② ネットワーク ③ Tags ④ レビューおよび送信

Configure network security for your Azure AI services resource.

種類 \*

インターネットを含むすべてのネットワークがこのリソースにアクセスできます。

Selected networks, configure network security for your Azure AI services resource.

無効になっています。どのネットワークもこのリソースにアクセスできません。このリソースにアクセスする唯一の方法となるプライベート エンドポイント接続を構成できます。

< 前へ 次へ

⑧ 「次へ」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > リソースの作成 > Azure OpenAI の作成

① 基本 ② ネットワーク ③ Tags ④ レビューおよび送信

タグは名前と値のペアで、同じタグを複数のリソースやリソース グループに適用することでリソースを分類したり、統合した請求を表示したりできるようにします。 [タグに関する詳細情報](#)

タグを作成してから別のタグやリソースの設定を変更すると、タグは自動的に更新されることをご注意ください。

名前	値	リソース
test	test	2 項目が選択されました

< 前へ 次へ

⑨ 「作成」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > リソースの作成 > Azure OpenAI の作成

Review and send

Basic Network Tags Automation のテンプレートをダウンロードする

使用条件

「作成」をクリックすることで、お客様は (a) 上記の Marketplace のオフリソースに関する法律条項とプライバシーに関する声明に同意し、(b) Microsoft およびそのオフリソースに関連する料金と、現在の支払い方法に対して Azure サブスクリプションと同じ請求額度で請求されることを認め、かつ、(c) Microsoft がお客様の連絡先情報、使用量情報、取扱に関する情報を、リポート、請求、その他の取扱上のアカティティを目的として、オフリソースのプロバイダーと共有する可能性があることに同意するものとします。Microsoft は、サードパーティのオフリソースに対する権利は提供しません。その他の詳細については、Azure Marketplace 使用条件 を参照してください。

**Basic**

リソース グループ	Azure subscription 1
リージョン	Assistant-AI-Chat
名前	East US
価格レベル	Assistant-AI-Chat
	Standard S0

**Network**

種類 インターネットを含むすべてのネットワークがリソースにアクセスできます。

< 前へ 次へ 作成

⑩ デプロイが完了したら「リソースに移動」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > Microsoft.CognitiveServicesOpenAI-20250530170135 | 概要

デプロイ

検索 削除 キャンセル 再デプロイ ダウンロード 最新

**概要**

✓ デプロイが完了しました

デプロイ名 : Microsoft.CognitiveServicesOpenAI-... 開始日時  
サブスクリプション : Azure subscription 1 関連付け  
リソース グループ : Assistant-AI-Chat

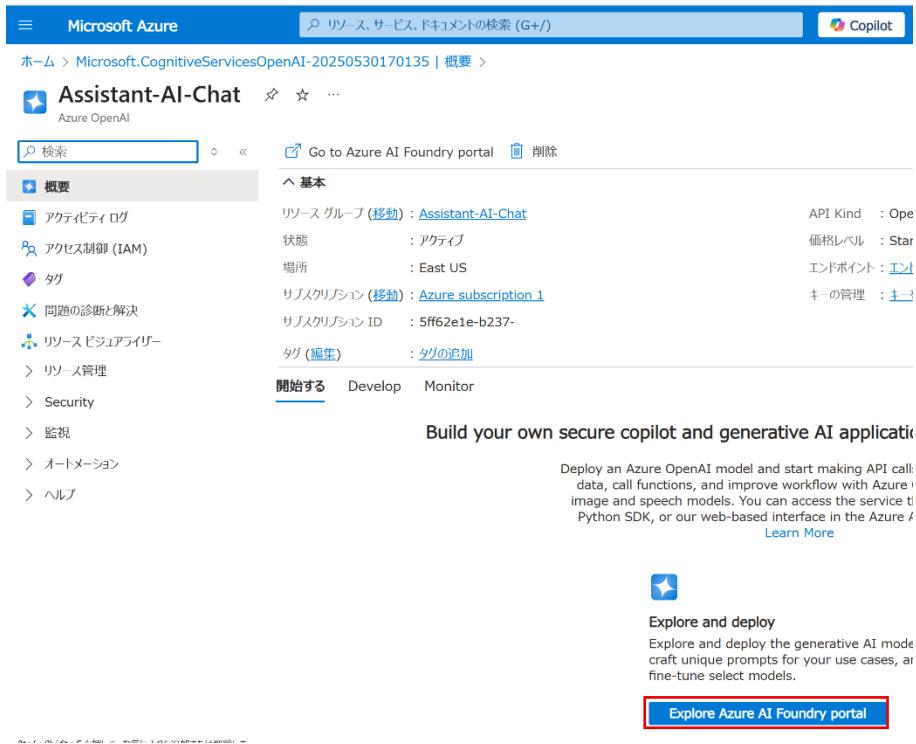
デプロイの詳細

次の手順

リソースに移動

フィードバックの送信  
デプロイに関するエクスペリエンスについてお聞かせください

⑪ 「Explore Azure AI Foundry portal」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/) Copilot

ホーム > Microsoft.CognitiveServicesOpenAI-20250530170135 | 概要 >

Assistant-AI-Chat Azure OpenAI

検索 Go to Azure AI Foundry portal 削除

概要

リソース グループ (移動) : Assistant-AI-Chat API Kind : Open

状態 : アクティブ 価格 レベル : Star

場所 : East US エンド ポイント : エンド

サブスクリプション (移動) : Azure subscription 1 キー の 管理 : キー

サブスクリプション ID : 5ff62e1e-b237- タグ (編集) : タグ の 追加

開始する Develop Monitor

Build your own secure copilot and generative AI application

Deploy an Azure OpenAI model and start making API calls to data, call functions, and improve workflow with Azure's image and speech models. You can access the service through the Python SDK, or our web-based interface in the Azure portal. [Learn More](#)

Explore and deploy

Explore and deploy the generative AI model. Craft unique prompts for your use cases, or fine-tune select models.

Explore Azure AI Foundry portal

⑫ 「新しいデプロイの作成」をクリックする

## チャット プレイグラウンド



コードの表示 デプロイ → イ

セットアップ 非表示

デプロイ \* [+ 新しいデプロイの作成](#)

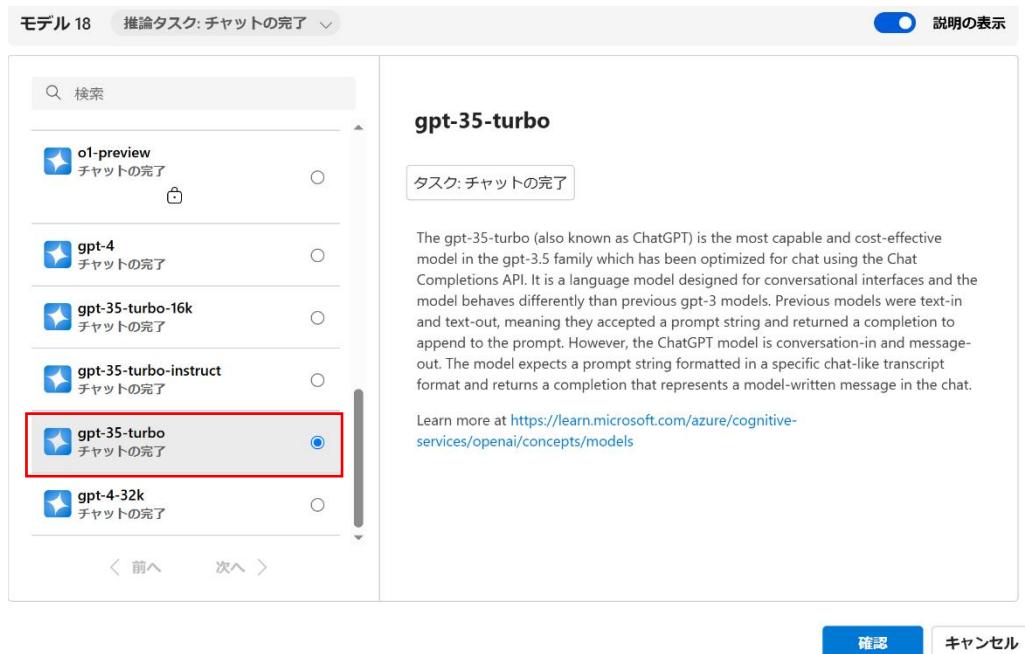
デプロイ 基本 モデル から

微調整された モデル から

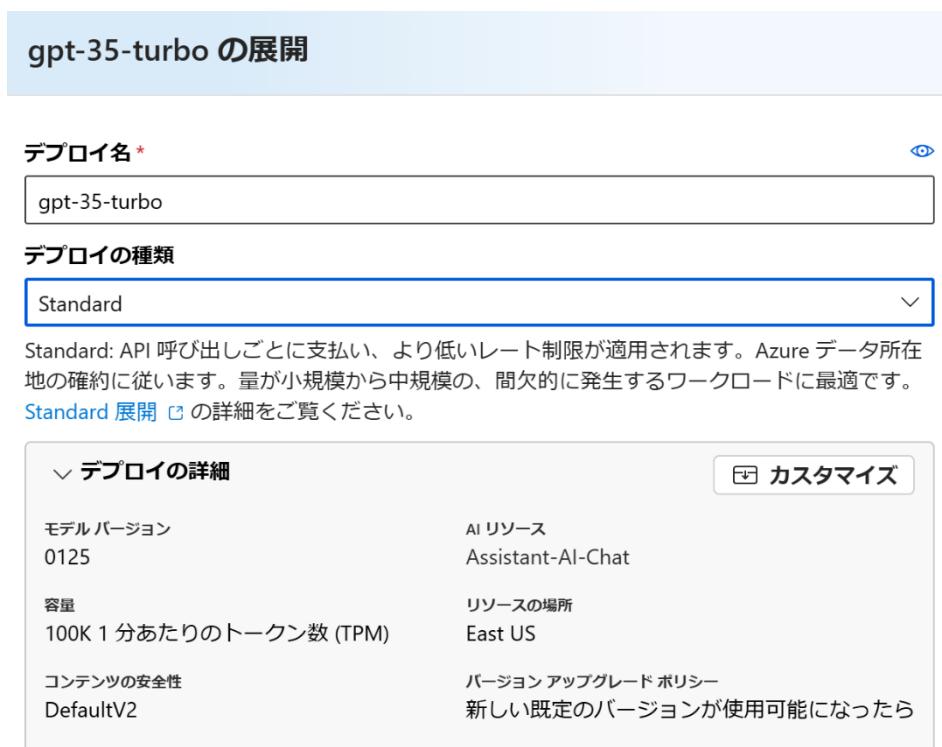
+ ボタン

- ⑬ 「gpt-35-turbo」を選択し、「確認」をクリックする(例：gpt-35-turbo)

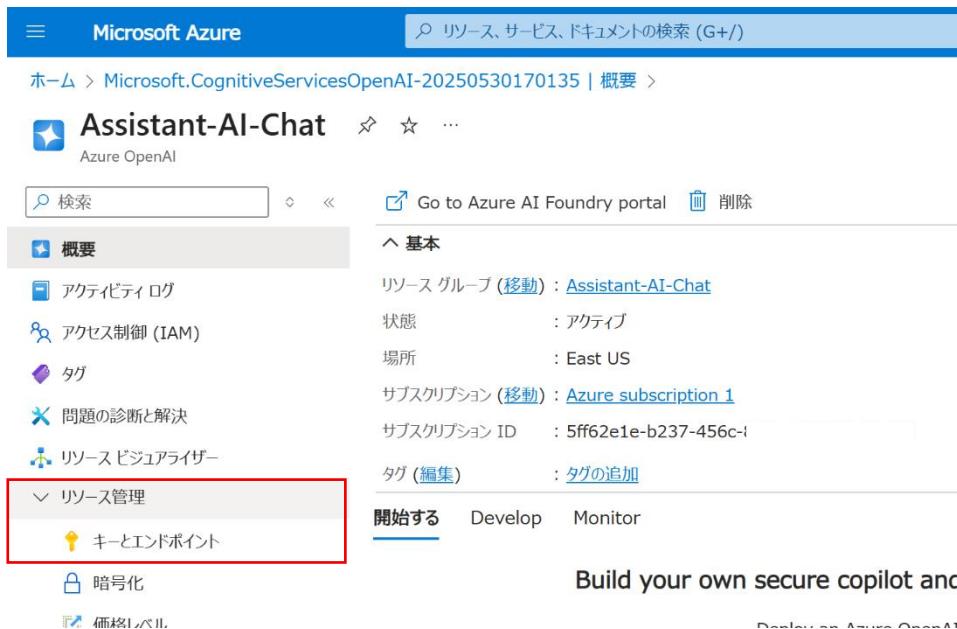
「AZURE\_OPENAI\_DEPLOYMENT」 = 「gpt-35-turbo」P13 の「ここに入力」に貼り付ける



- ⑭ 「デプロイ」をクリックする



⑯ ⑮のページまで戻り、「リソース管理」→「キーとエンドポイント」をクリックする



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > Microsoft.CognitiveServicesOpenAI-20250530170135 | 概要 >

**Assistant-AI-Chat** Azure OpenAI

検索 Go to Azure AI Foundry portal 削除

**概要**

リソース グループ (移動) : Assistant-AI-Chat  
状態 : アクティブ  
場所 : East US  
サブスクリプション (移動) : Azure subscription 1  
サブスクリプション ID : 5ff62e1e-b237-456c-  
タグ (編集) : タグの追加

リソース 管理

リソース管理 キーとエンドポイント (選択)

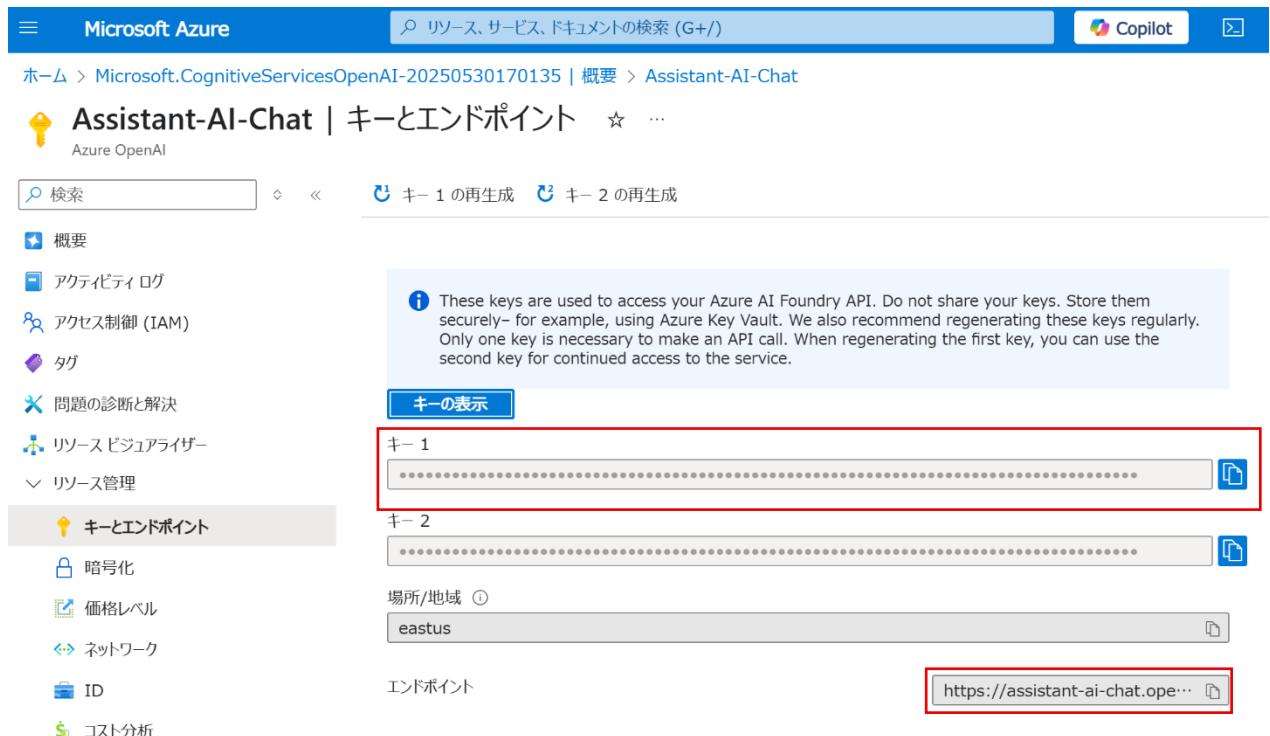
開始する Develop Monitor

Build your own secure copilot and

Deploy on Azure OpenAI

⑯ 「キー 1」 = 「AZURE\_OPENAI\_API\_KEY」

「エンドポイント」 = 「AZURE\_OPENAI\_ENDPOINT」をP13の「ここに入力」に貼り付ける



Microsoft Azure リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > Microsoft.CognitiveServicesOpenAI-20250530170135 | 概要 > Assistant-AI-Chat

**Assistant-AI-Chat | キーとエンドポイント** Azure OpenAI

検索 キー 1 の再生成 キー 2 の再生成

概要

These keys are used to access your Azure AI Foundry API. Do not share your keys. Store them securely—for example, using Azure Key Vault. We also recommend regenerating these keys regularly. Only one key is necessary to make an API call. When regenerating the first key, you can use the second key for continued access to the service.

キーの表示

キー 1

キー 2

場所/地域 ①

eastus

エンドポイント

https://assistant-ai-chat.ope...